

テーマ	「物がとけるとは」		
ねらい	水溶液は、水に何かを溶かしたものである。溶かしたものが水中で「均一」に散らばっていることだけでなく、溶ける要素には、水との親和性もその大小も要素である。顕微鏡で観察したり、ろ過、水以外の溶媒を使った実験を行ったりすることで、水溶液の理解を深めることができる。		
育てたい力	科学的な見方・考え方 科学の有用性	物が水に溶けるのは粒子として存在することと、水との親和性が大事であるという見方・考え方ができる。 物が水に溶けることができるように、日常生活の中では、いろいろな工夫があることを知る。	
過程	主 な 学 習 活 動		
つかむ 10分	ここにある水に溶かしたものは、水溶液だろうか。 ・透き通っているから水溶液だ。 ・色がついている物もある。 何が溶けているのだろうか。		
調べ 30分	①けんび鏡名人 ①食塩は全体に広がっているのだろうか。 ②食塩は、水以外の物に溶けるだろうか。	②とかし名人	③ろ過名人 ③墨汁はろ過するとどうなるだろうか。 ④海の水に塩はどれぐらい溶けているのだろうか。
広げ 10分	観察・実験の結果から、気付いたこと・分かったことを話そう。 食塩が出てくる瞬間や溶ける瞬間を見た。 海の水に食塩が溶けている。 ○○に溶けるものもあるんだ。		
ふり返る 10分	物は水の中で粒子になって存在しているんだ。 水と仲良くできることも、水に溶けるには大事な要素なんだ。 今日の学習をふり返って、シートに書こう。		
留意点	○「物のとけ方」の学習終了後にご活用ください。 ○使用する薬品は無害のものですが、口に入れないよう学校でもご指導ください。 ○ワークシートを配布します。		